

# 2022年度 事業計画書

公益社団法人日本オリエンテーリング協会

## 公益社団法人日本オリエンテーリング協会 中長期事業方針 (2020)

日本におけるオリエンテーリングは、導入以後 50 年余りが経過し、知的でかつ冒険的な、誰もが参加できる野外スポーツとして、徐々にではあるがその社会的認知が進みつつある。公益社団法人日本オリエンテーリング協会 (JOA) は、その統括団体として、普及と社会的認知の向上、競技力と技術の向上、選手の育成、国際協力、そして社会貢献に取り組んできた。今後も引き続き、近未来のスポーツ文化の視点からオリエンテーリングの本質を見つめ、より人々に親しまれるようにするとともに、オリエンテーリングにかかわる人々が喜びを感じ、人間力の向上が得られることを目指したい。そのために、以下の 5 つの目標の達成を目指している。

1. 生涯スポーツとして、健康と生きがいのある豊かな人生をつくる。
2. 競技スポーツとして、自律の精神でフェアに挑戦する競技力と人格の向上を目指す。
3. 日本と世界をオリエンテーリングでつなぎ、国際友好に貢献する。
4. 社会に役立つ知識とスキルを広める。
5. 自然の中で行われる野外スポーツとして、環境に対して畏敬の念を持つ。

上記に述べた目標を具体化するために、過去において多くの目標を設定し、行動してきた。その中には達成できたものもあるが、いまだに達成できていないもの、手の付けられていないもの、新たな課題が浮かび上がってきたものがあり、引き続き達成に向けての努力が必要である。

また、スポーツ界における様々な不祥事などを受けて、スポーツ庁は 2019 年 6 月に、「中央スポーツ団体向けのガバナンスコード」を策定し、組織のあり方の指針を示した。JOA としてもこれに従い、今後も持続可能な組織であるためのあり方を確立してゆく必要がある。

そこで、上記の目標達成のため、2020 年以降、以下のような具体的な行動目標を設定する。

一方、これらの目標を達成するためには、具体的な目標設定のみではなく、次のような本質的な課題に対する議論を行い、その広報・伝達を展開してゆく必要がある。すなわち、1. オリエンテーリングの本質、スポーツとしての特性は何か。2. オリエンテーリングの歴史的過程を踏まえた、競技スポーツ、生涯スポーツとしての社会的、文化的、教育的意義は何か。3. 野外・自然環境を実践の場とするオリエンテーリングが他のスポーツと異なる理念は何か? といったことである。オリエンテーリングの本質に係わるこうした議論も継続してゆく。

## 2022 年以降の行動目標 (目標達成期間)

### 1. 公益事業

1-1 : IOF (International Orienteering Federation) の事業への協力・参画

1-1-1 : WOD (World Orienteering Day) 事業 (毎年継続)

1-1-2 : 国際大会の招致 : 世界・地区選手権大会開催 (隔年)

1-1-3 : WRE (World Ranking Event) の毎年開催

1-1-4 : IOF への役員、委員の派遣 (継続)、理事への立候補 (次期~次々期改選)

1-1-5 : 世界選手権などへの選手派遣 (毎年継続)

1-2 : JOC 承認団体から準加盟団体への昇格 (5 年)

1-3 : アウトドアスポーツ界、陸上競技界との協働

1-3-1 : 協働イベント年間 5~10 回 (3 年)

1-4 : 大学スポーツへの採用

1-4-1 : UNIVAS 事業への協力 (継続)

1-4-2 : 学会等の学術団体との交流 (継続)

1-5 : 高校の部活動との協働による登山界への認知

1-5-1 : 高校体育連盟の事業への協力 (継続) と参入 (5 年)

1-6 : 教育施設 (小中学校、野外活動施設) に向けてのアプローチ

1-6-1 : 野外活動施設・学校の地図作製・教育事業への協力 (継続)

- 1-7 : パーマネントコース (P C) の活用
- 1-7-1 : 整備体制・システムの見直し (3年～継続)
- 1-7-2 : 広報体制の検討 (継続)

- 1-8 : 地域への貢献 : スポーツツーリズムによる地域活性化
- 1-8-1 : 地方行政事業への協力・参画 (継続)

- 1-9 : 各種技術 (読図、ナビゲーション、大会運営、地図作成) の社会還元
- 1-9-1 : 講習会開催・情報発信 (継続)

## 2. 競技力

- 2-1 : 世界に通用する選手の発掘、戦略的育成
- 2-1-1 : コーチング制度の確立 (1年)
- 2-1-2 : 選手育成のための系統的指導方法の確立 (5年)

- 2-2 : ジュニア世代の育成
- 2-2-1 : ジュニア世代対象イベントの充実 (3年)

## 3. 競技会

- 3-1 : 主催大会 (全日本選手権) の安定的開催と質の維持
- 3-1-1 : 運営指導者・イベントアドバイザーの充実 (2年)
- 3-1-2 : 参加者増 (目標各大会 1,000人超)
- 3-1-3 : ありたい大会モデルの呈示 (3年)
  
- 3-2 : 大会運営サポート
- 3-2-1 : 大会運営技術の普及、運営モデルの呈示、技術講習会など (2年)
- 3-2-2 : 公認大会の増加 (3年)
- 3-2-3 : 競技規則やガイドライン等の規程類の適切な管理 (継続)
  
- 3-3 : 大会におけるボランティアとエキスパートの協働体制の構築
- 3-3-1 : 協働モデルの呈示 (3～5年)

## 4. 普及

- 4-1 : 地方活性化支援
- 4-1-1 : 支援モデルの作成 (3年)
- 4-1-2 : 各種支援方法の模索・実践 (継続)
  
- 4-2 : 地域クラブ活性化支援
- 4-2-1 : 認定クラブ制度の構築 (3年)
- 4-2-2 : クラブ事業への支援 (継続)
  
- 4-3 : 広報の強化、楽しさのアピール、充実感の創出
- 4-3-1 : 各種媒体による広報システムの見直し・構築 (継続)

## 5. 総務

- 5-1 : コンプライアンス、
- 5-1-1 : 選手・役員・競技者のマナー・コンプライアンス教育 (継続)
- 5-1-2 : アンチ・ドーピング教育 (継続)
- 5-1-3 : 規定類の整備 (2年)、
  
- 5-2 : 組織運営の見直し : 適切な役員選任、
- 5-2-1 : 役員選任方法の改訂 (2年)

- 5-2-2：外部役員招聘（4年）
- 5-2-3：委員会等内部組織構造の見直し（継続）
  
- 5-3：リスクマネジメント
  - 5-3-1：情報収集体制の確立（3年）
  - 5-3-2：危機管理体制の構築（2年）
  
- 5-4：事務局の強化
  - 5-4-1：事務局員の増加と業務分担の見直し（3年で人数倍増）
  
- 5-5：財政健全化
  - 5-5-1：収入財源の確保・見直し（継続）
  - 5-5-2：財務の明確化（継続）
  
- 5-6：将来計画の構築
  - 5-6-1：次期中長期計画の策定（2年）
  - 5-6-2：メンバーの選任、継続的議論

## 公益社団法人日本オリエンテーリング協会 2022年度事業方針

公益社団法人日本オリエンテーリング協会 中長期事業方針（2020）および行動目標に基づいて、2022年度事業として、継続・強化すべき事業、早期に着手するべき事業、その担当部門は以下の通りとする。（注：担当部門は現在の組織・委員会を前提としており、その再編もあり得る。）

### I：公益事業

1. IOFの事業への協力、国際大会の招致、IOFへの役員派遣（国際）
2. アウトドアスポーツ界・陸上競技界との協働、大学スポーツへの採用、高校の部活動との協働（総務、普及指導）
3. 各種技術（読図、ナビゲーション、大会運営、地図作成）の社会還元（普及指導）

### II：競技力

4. 世界選手権などへの選手派遣（強化、ジュニア、スキー、MTBO、トレイル）
5. 選手強化のための指導者の養成と系統的指導方法の確立（強化、普及指導）
6. ジュニア世代の育成（ジュニア）

### III：競技会

7. 主催大会（全日本選手権）の開催と質の維持（全日本、スプリント、全日本リレーWG）
8. 競技規則やガイドライン等の規程類の適切な整備・管理（競技、地図）
9. 大会運営サポート体制・大会運営技術の普及（普及指導、競技、地図）

### IV：普及

10. 指導者の養成と制度の確立（普及指導、競技）
11. 地方活性化支援、地域クラブ活性化支援（地域活性化）
12. 広報の強化（総務、事務局）

### V：総務

13. 適切な役員選任、事務局の強化、財政健全化、組織運営の見直し、規程類の整備（総務、事務局）
14. 次期中長期計画の策定
15. アンチ・ドーピング教育（アンチ・ドーピング）
16. 選手・役員のコンプライアンス教育、リスクマネジメント（危機管理・コンプライアンス、強化）
17. 新型コロナウイルス感染症に対する対応（危機管理・コンプライアンス、事務局）

## 事業内容

### I：公益に関する事業

- 1.1 関係諸機関・団体との連携事業。
  - 1.1.1 所管機関等と普及・指導の活動に務める。
  - 1.1.2 JOA 加盟団体・関係団体の組織強化に務める。
  - 1.1.3 JOC 国際人養成アカデミーに参加する。
- 1.2 外部団体等への加盟、派遣
  - 1.2.1 我が国を代表し、国際オリエンテーリング連盟に引き続き加盟し、委員会等へ派遣を行う。
    - a. IOF の専門委員会に委員を派遣する。
    - b. 諸外国との交流を進める。特にアジア地区におけるオリエンテーリングの普及発展に IOF と連携して取り組む。
    - c. Sport for Tomorrow コンソーシアムに参加し、同事業に協力する。
  - 1.2.2 (公財)日本オリンピック委員会に引き続き加盟し、各委員会等へ派遣を行う。
  - 1.2.3 (公財)日本スポーツ協会に引き続き加盟する。
  - 1.2.4 (公財)日本アンチ・ドーピング機構に引き続き加盟する。
  - 1.2.5 (一社)日本スポーツフェアネス推進機構に引き続き加盟する。
  - 1.2.6 野外活動団体協議会に引き続き加盟する。
  - 1.2.7 (一社)大学スポーツ協会に引き続き加盟する。
- 1.3 社会認知と企業協賛に向けたコラボレーション
  - 1.3.1 国内外のマルチスポーツ大会への採用への働きかけと選手派遣を行う。
  - 1.3.2 日本スポーツ協会等への都道府県協会への加盟促進。
  - 1.3.3 他団体との社会認知の向上と、企業協賛を検討する。

### II：普及・指導に関する事業

- 2.1 指導者養成、資格認定、登録
  - 2.1.1 日本スポーツ協会公認スポーツ指導員制度の移行を進める。
    - a. ディレクタ 1. 2 級から公認スポーツ指導者への移行講習会を開催するとともに、新規公認スポーツ指導者を育成する。
  - 2.1.2 新規公認スポーツ指導者講習会を開催する。
  - 2.1.3 ディレクタ及びインストラクタに対して情報提供を行う。
  - 2.1.4 協会並びに会員の養成したディレクタ、インストラクタの資格審査、認定・登録を行う。
  - 2.1.5 ナヴィゲーション・インストラクタ養成講座及び更新講習会を 2 回開催。講習各級検定を 5 回ほど開催、ナビゲーションスキルを認定する。
- 2.2 常設コース（パーマネントコース）
  - 2.2.1 行政機関、企業及び会員等により設置申請のあったコースについて判定・認定及びコース設定、地図に関する指導を行う。
  - 2.2.2 認定常設コースの規格器材の指導を行う。
  - 2.2.3 常設コース情報の整備及び活用方法を検討する、ネットプリントの推進を図る。
  - 2.2.4 オリエンテーリングのレガシーとして全国に現存する常設コースの維持・活用、および時代環境に合わせた再構築に向けた研究を行う。
- 2.3 距離認定表彰
  - 2.3.1 オリエンテーリング 100 キロコンペ大会の認定を申請に基づき認定する。
  - 2.3.2 オリエンテーリング 100 キロコンペの参加申請にたいし、走歩距離の認定を行い、一定距離毎に表彰を行う。
  - 2.3.3 100km コンペ制度の今後のあり方の研究を行う。

## 2.4 普及及び受託事業

- 2.4.1 普及に関する研修会・講習会を開催する。
- 2.4.2 活動が停滞している会員に対し、普及・活性化のための指導・育成を図る。
- 2.4.3 加盟していない県組織に対し、情報活動を行うとともに、加盟への働きかけと指導を図る。
- 2.4.4 民間企業等からの受託事業の推進を図り、実施する。
- 2.4.5 野外活動施設、民間企業への普及を図る。
- 2.4.6 ワールドオリエンテーリングディの実施を推進し、学校教育への新たな導入への方策を検討する。
- 2.4.7 クラブを認定する制度について検討する。
- 2.4.8 高校登山部への技術指導について、高体連登山部と協力する。
- 2.4.9 大学教育への取り入れについて調査研究と情報提供を行う。
- 2.4.10 **ロゲイニング協会のJOAの加盟を進める。**
- 2.4.11 **OMM(Original Mountain Marathon)へのコミットを強化する。**
- 2.4.12 **JSTA(日本スポーツツーリズム推進機構)へ加盟する。**
- 2.4.13 **北海道日本ハムファイターズと協同でのナビゲーションスポーツ活動を推進する(北海道プロジェクト)。**

## 2.5 広報

- 2.5.1 会員及び競技者、指導者他行政、企業、報道関係に対し、積極的に情報の提供を行う。
- 2.5.2 JOA ニュースの編集、発行を行う。
- 2.5.3 ホームページ維持管理及び充実を図り、情報の提供を行う。
- 2.5.4 プレスリリースを実施する。
- 2.5.5 理事会・事務局便りの発行を行う。
- 2.5.6 Facebook, Twitter, YouTube にて情報を発信する。
- 2.5.7 JOC の「スポーツと環境」に賛同し、大会等において環境のための啓発活動を推進する。

## 2.6 地域活性化委員会

- 2.6.1 各地区からの助成金支援申請への対処
  - ・各会員から提出される助成金支援申請に対する審査、回答書案の作成。
- 2.6.2 モデル事業「九州地区活性化」
  - ・九州地区について、各種活性化活動を継続して行う。今後の他地区への波及を狙う。特に、中国、四国地域への拡大を行う。
- 2.6.3 広報連携活動。
  - ①九州地区総合ポータルサイト(Web)の更新、関係情報の充実。他地域への拡大。
  - ②地域でのオリエンティア関係者連絡mailの整備。(特に九州、中国、四国)  
九州、中国、四国オリエンティアへ、ふるさと登録への呼びかけ。
  - ③九州におけるオリエンテーリング活動継続  
地図読み講習会ほか、地域関係者との連携活動強化。
- 2.6.4 会員、クラブ、競技者、愛好者の増加、活性化に向けた調査、検討、施策を実施する。
- 2.6.5 集会を開催し、広く意見を募り、活性化への施策の検討を行い、実施する。

## III：競技会の開催及び公認に関する事業

### 3.1 主催大会

- 3.1.1 国内に於いて次の大会を主催する。

a. 第11回全日本オリエンテーリング大会ミドル競技	10月8日	山梨県	[WRE対象]
b. 第49回全日本オリエンテーリング大会ロング競技	10月9日	山梨県	[WRE対象]
c. 第16回全日本トレイルオリエンテーリング選手権大会	開催日、開催地未定		
d. 第15回全日本オリエンテーリング大会スプリント競技	開催日、開催地未定		
e. 第31回全日本リレーオリエンテーリング選手権大会	開催日未定、	栃木県	
h. 第2回全日本ジュニアオリエンテーリング選手権大会	2022年 月 未定		
f. 第12回全日本スキーオリエンテーリング選手権大会			
パシュート・スプリント	2023年 月 日～ 日	未定	
ミドル・リレー	2023年 月 日～ 日	未定	

### 3.2 公認大会

- 3.2.1 会員よりの公認大会申請を受け、競技規則に基づいて認定を行う。
- 3.2.2 大会イベントアドバイザーの任命、選手権(E)クラスの推薦の審査、記録の認定等を行う。
- 3.2.3 公認大会推進窓口を設置する。

### 3.3 ランキング

- 3.3.1 日本ランキングを行う。(対象競技：フットO)
- 3.3.2 年齢別ランキング制度を構築する。

### 3.4 国際大会の開催

- 3.4.1 ワールドランキングイベントを開催する。
- 3.4.2 2026年世界スキーオリエンテーリング選手権大会の日本開催招致活動。

### 3.5 その他の競技会

- 3.5.1 ナヴィゲーションゲームズ2022を賛同する団体と共催し開催する。

### 3.6 賠償責任保険及び傷害保険

- 3.6.1 会員と協力して、賠償責任保険を締結する。
- 3.6.2 JOA主催事業の大会、練習会・合宿及び、公認大会等への参加者及び運営者への傷害保険を締結する。

### 3.7 規程・規則

- 3.7.1 オリエンテーリング競技に関する規則類を、競技の実情を見ながら適宜更新する。  
・競技委員会(フットO)、スキー委員会(スキーO)、トレイル委員会(トレイルO)
- 3.7.2 スキーO、トレイルO、MTBO地図図式等の整備及び検討。
- 3.7.3 組織の健全な運営のために規程類の整理・改廃を行う。

### 3.8 地図委員会

- 3.8.1 ISSprOM2019 2022年改訂版の翻訳(4月頃)。
- 3.8.2 ISSprOM2019の解説資料の作成。(5月頃)
- 3.8.3 最新の地図調査技術、図式規定解説、初心者向け地図製作講座などをまとめたオンラインセミナー(8月頃)

### 3.9 競技者登録

- 3.9.1 競技者登録を、会員からの登録とJapan-O-entryを活用し、継続して登録を行う。
- 3.9.2 競技者登録者に対して情報提供を行う。

### 3.10 競技委員会

- 3.10.1 委員会の開催
- 3.10.2 規程類の保守
- 3.10.3 公認大会改革の継続
- 3.10.4 イベントアドバイザー関連
  - ①イベントアドバイザー研修会を、関東と関西で2回開催予定。
  - ②講習会/研修会のカリキュラム及び教材について見直しを行う。
  - ③ディレクター/インストラクタからの移行措置を行う。
- 3.10.5 公認大会の認可、イベントアドバイザーの任命、Eクラス推薦の審査および記録の認定を行う。

### 3.11 全日本大会実行委員会

- 3.11.1 2022年度大会の計画、開催及び運営実施。  
競技、会計、演出について知識・技術を蓄積し各開催地の会員と連携し、知識・技術を展開・運営を共同で実施する。
- 3.11.2 2023年度以降の大会計画・中期目標策定。  
開催地について競技性、地域性を加味して選定し、トレイン指定にて会員への開催依頼を行う。

3.11.3 日本ランキングの計画・執行を行う。

### 3.12 スプリント委員会

3.12.1 2022年度大会の開催及び運営。

3.12.2 2023年度大会の計画、下準備。

3.12.3 日本ランキング（スプリント）の計画・執行を行う。

## IV：競技力向上に関する事業

### 4.1 世界選手権への選手派遣、役員派遣

4.1.1 WOC [2022年6月26日～6月30日 デンマーク]への選手・役員派遣を行う。

4.1.2 JWOC [2022年7月11日～16日 ポルトガル] への選手・役員派遣を行う。

4.1.3 WUOC [2022年8月16日～21日 スイス] への選手・役員派遣を行う。

4.1.4 WCup [2022年5月25日～29日 スウェーデン]、[8月3日～7日 エストニア]、  
[10月1日～3日 スイス]、への選手・役員 派遣を行う。

4.1.5 WTOC [2022年7月19日～23日 ポーランド] への選手・役員派遣を行う

4.1.6 WMTBOC [2022年7月8日～18日 スウェーデン] への選手・役員派遣を行う。

4.1.7 WMMTBOC [2022年9月13日～24日 ブルガリア] への選手・役員派遣を行う。

4.1.8 JWSOC [2023年1月30日～2月6日 ラトビア] への選手・役員派遣を行う。

4.1.9 壮行会・報告会を開催（オンライン予定）する。

### 4.2 選手認定事業「強化」

4.2.1 WOC, WCup 等に、出場する選手を選考し代表チームを編成する。また、選考会の開催、代表選手の認定・派遣、合宿開催等による強化、情報提供、支援活動及び報告会を実施する。

4.2.2 強化選手の指定(フォレスト強化選手、スプリント強化選手)、強化合宿・練習会等による強化の他、情報提供、支援活動を実施する。

### 4.3 選手認定事業「ジュニア」

4.3.1 JWOC, AsJYOC 等に選手を選考し、代表チームを編成する。また、選考会の開催、代表選手の認定・派遣、合宿開催等による強化、情報提供、支援活動及び報告会を実施する。

4.3.2 U-20, U-18 強化選手の指定、強化合宿・練習会等による強化の他、情報提供、支援活動を実施する。

4.3.3 国内における若手選手の発掘・育成する。

4.3.4 ジュニア向け指導書の作成を行う。

### 4.4 選手認定事業「スキー0」

#### 4.4.1 国際大会への参加支援

a. 世界スキーオリエンテーリング選手権大会への日本代表選手派遣。

b. ワールドカップへの日本代表選手派遣。

c. ジュニア世界選手権への日本代表選手派遣。

d. ヨーロピアンユース選手権への日本選手オープン派遣。

e. その他、海外開催のオープン大会への参加支援。

#### 4.4.2 強化活動

a. 強化選手の指定。

b. 強化合宿の開催(残雪期、夏期、秋期、冬期)全6回程度。

c. フット強化合宿への参加支援。

d. 強化計画策定支援

#### 4.4.3 代表用具の整備

a. 日本代表ウェアの整備。

b. 競技用具の整備。

#### 4.4.4 代表選手教育

a. マナー、ドーピング、インテグリティ、代表選手規範の教育。

#### 4.4.5 大会の開催

a. 全日本大会(スプリント、パシュート、スプリントリレー、ミドル)の実施。



- b. ローカル大会開催の支援。
- 4.4.6 普及・広報活動
  - a. 強化候補選手の発掘
    - ①旭川スタープロジェクトの実施支援。
    - ②初心者講習会の開催。
  - b. スポンサーの獲得活動。
  - c. スノーシューオリエンテーリング大会の開催
  - d. クロスカントリースキーヤーに対する広報活動（大学スキー部、愛好者、高校生）
- 4.4.7 競技基盤の整備
  - a. 競技規則の整備、周知活動。
  - b. 指導者講習会の開催。
  - c. 委員会組織体制の強化：サクセッションプランの策定と委員候補者育成。
- 4.5 選手認定事業「トレイル0」
  - 4.5.1 全日本大会の開催、公認大会の承認、大会コントローラの派遣を行う。
  - 4.5.2 パラリンピッククラス競技人口の増大、障害者団体・障害者スポーツ協会等への働きかけを行う。
  - 4.5.3 トレイル0普及員制度の見直し。
  - 4.5.4 トレイル0コントローラ講習会の開催（オンライン開催も視野に入れる）。
  - 4.5.5 WTCO への選手、役員を選考、選手強化対策の策定、推進。
  - 4.5.6 日本トレイル0競技規則の改訂、ガイドラインの見直し。
- 4.6 選手認定事業「MTB-0」
  - 4.6.1 MTB-0 広報用パンフレットの作成、配布。
  - 4.6.2 ローラーチャレンジ、MTB-0 体験会開催。
  - 4.6.3 Web, SNS, mail 等を活用した広報・記事発信を継続的実施。
  - 4.6.4 海外へのチーム派遣、国内強化活動[練習・合宿]を実施。
  - 4.6.5 NaviTabi を利用しての国際プロモーションの実施。
- 4.7 スポーツ助成等への申請
  - 4.7.1 (独法)日本スポーツ振興センターのスポーツ振興基金助成に応募し、選手強化活動、競技会活動を実施する。
  - 4.7.2 toto 補助金事業に応募し、普及活動、指導者育成活動、アンチ・ドーピング活動を実施する。
  - 4.7.3 その他の助成事業に応募し、選手強化活動、競技会活動を実施する。
- 4.8 女性委員会
  - 4.8.1 女性競技者増加、活性化を目的としたイベント（女性向けフォレスト練習会、WOC 女子代表による報告会、オンラインセミナー「フィジカルトレーニングについて」、オンラインセミナー「体のケア」）の実施、
  - 4.8.2 意見収集/PR 活動/サポートの仕組み構築。
- 4.9 アスリート委員会
  - 4.9.1 各委員、JOA 公式 WEB サイトに設置したアスリートからの意見に基づき理事会及び委員会に提言を行う。

## V：その他目的達成に必要な事業

- 5.1 組織と財政基盤の強化
  - 5.1.1 財政の健全化のための諸方策を継続検討し、実施する。
  - 5.1.2 寄附金募集事業
  - 5.1.3 賛助会員制度を有効利用し、会員の増加を推進する。
  - 5.1.4 オフィシャルスポンサーの及びオフィシャルサプライヤーの開拓を行う。
  - 5.1.5 組織の効率的な運営のため、委員会の再編を行う。
  - 5.1.6 事務局の組織強化
  - 5.1.7 組織の将来構想検討を行う。
  - 5.1.8 ガバナンスコードに遵守に向けての対応。

## 5.2 アンチ・ドーピング委員会

- 5.2.1 WOC、JWOC 等に向けた強化合宿において講習会を実施する。
- 5.2.2 講習会においては検査の実技を実施して具体的な教育啓発活動を試みる。
- 5.2.3 日本アンチ・ドーピング機構の協力を仰ぎ教育啓発活動をおこなう。
- 5.2.4 学連における教育啓発活動を充実していく。
- 5.2.5 選手からのアンチ・ドーピングに関する相談に応じる。
- 5.2.6 日本スポーツフェアネス推進機構及び、JADA と連携し国内でのアンチ・ドーピング活動に貢献する。
- 5.2.7 JOA アンチ・ドーピング規程の改定

## 5.3 コンプライアンス

- 5.3.1 情報収集を行い、ガバナンスコードに基づき、コンプライアンス管理体制を整備する。

## 附則(略称)

AsOC	(アジアオリエンテーリング選手権)
AsJYOC	(アジアジュニアユース選手権)
JADA	(公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構)
JOC	(公益財団法人日本オリンピック委員会)
JWOC	(ジュニア世界オリエンテーリング選手権)
JWSOC	(ジュニア世界スキーオリエンテーリング選手権)
IOF	(国際オリエンテーリング連盟)
ISOM	(国際オリエンテーリング地図図式規程)
ISSprOM	(国際スプリントオリエンテーリング図式規程)
UNIVAS	(一般社団法人大学スポーツ協会)
WOC	(世界オリエンテーリング選手権)
WCUP	(ワールドカップ)
WUSOC	(世界学生スキーオリエンテーリング選手権)
WMOC	(世界マスターズオリエンテーリング選手権)
WTOC	(トレイル・オリエンテーリング世界選手権)
WMTBOC	(マウンテンバイクオリエンテーリング世界選手権)
WSOC	(世界スキーオリエンテーリング選手権)
WMSOC	(世界マスターズスキーオリエンテーリング選手権)
WMG	(ワールドマスターズゲームズ)
WG	(ワールドゲームズ)